



プレスリリース

世界有数のリモート・アクセス・ソフトウェア企業、チームビューア、 日本にオフィスを開設し、事業の拡大を表明

*日本拠点を開設し、長期的にサービスを提供できる体制を確立することによって、
1万3,000もの日本の顧客に対してサポートを向上させ、年率100%の成長を期待*

2018年5月30日 = 東京 – 世界有数のIoT、リモート・アクセス、モニタリング、遠隔支援、協働ソフトウェアの提供者であるチームビューア(以下 [TeamViewer®](#)) は、日本で事業の拡大と顧客サポートの向上のために、今年、東京に日本初となる拠点を開設することを発表しました。

本日東京で、記者会見した同社のCEOであるオリバー・スタイルは、日本の市場での長期的な成長を期待していると強調し、以下のように述べています。

「日本は、当社の成長を加速化させる潜在性のある素晴らしい市場である。現在、日本には1万3,000ものお客様がいる。TeamViewerのソフトウェアは、日本で今年の第1四半期に、前年同期25%増の50万回ダウンロードされた。われわれは、これを年率100%の成長にしたいと思っている。お客様から、国内でサポートして欲しいという声が寄せられてきたが、日本にオフィスを開設することによって、こうした要望に応えることができ、大変嬉しく思う。」

TeamViewerの東京オフィスは、営業やチャネル開発、プリセールスエンジニアリング、マーケティングスタッフで構成されることになっています。TeamViewerには、既に日本をサポートするチームがありますが、これに加えて、5月24日に日本語版の「Community」ウェブサイト(オンライン・フォーラム・サイト)を立ち上げ、日本顧客へのサービスの向上を図りました。

スタイルは、TeamViewerのソフトウェアは、世界第三位の経済規模を誇る日本のイノベーションの発展を牽引する中小企業や事業者のニーズを十分に満たすものであると述べています。日本で、多くの業界でIoTが開発、採用されていく中、TeamViewerが提供する安全なネットワークによって、顧客は、それらの技術がもたらすメリットを享受することができます。更に、TeamViewerの革新的なソフトウェアのソリューションと技術は、効率化を推進すると共に、企業と従業員のリモートワーク環境を整え、在宅勤務やフレックスタイム制度など、日本が推進している「働き方改革」の実現を支援します。

スタイルは次のように述べています。

「企業と従業員は一層繋がりが、効率良く、機動的に働くことが求められている。TeamViewerは



低コストで、広範囲で簡単に利用できるソリューションを提供し、『働き方改革』を支援する共に、企業の利益向上にも貢献することができる。」

ドイツのゲッピンゲンで設立され、現在 60 か国以上から 700 名もの従業員を擁するグローバル企業となった TeamViewer にとって、日本拠点の開設は、重要な節目となります。TeamViewer のソフトウェアは、現在、世界で 4 億台もの機器で利用されています。

TeamViewer について

TeamViewer は、世界有数の IoT、リモート・アクセス、モニタリング、遠隔支援、協働ソフトウェアの提供者です。TeamViewer が提供するソリューションは、様々なビジネスのあらゆる局面を支援し、画面の共有、リモート・デスクトップ、リモート・アクセス、簡易なビジネスチャット、ウェブおよびビデオ会議、バックアップ、マルウェア対策、オンライン・ホワイトボードなど、多岐にわたります。

TeamViewer の主要製品は、これまで 17 億台を超える機器で利用され、少なくともそのうちの 4,000 万台が常時 TeamViewer で繋がっています。

TeamViewer は、2005 年にドイツのゲッピンゲンで設立され、現在、60 か国以上から 700 名もの従業員が様々な国で活動しています。詳細は、当社のウェブサイト(www.teamviewer.com/ja)をご参照ください。